

科目名	看護理論
科目責任者	市江 和子
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 春semester
科目の位置付	DP1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身につけ、看護学分野の質の高い実践、教育・研究に反映することができる。 DP2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。
科目概要	看護学および科学哲学の歴史の変遷を振り返り、現在の看護学の理論体系について理解を深めるとともに、看護理論を実践および研究に活用する基礎を養う。
到達目標	1. 看護学および科学哲学の歴史の変遷を理解する。 2. 看護学における主要な理論・概念を、看護現象との関連において理解する。 3. 看護理論あるいは概念モデルを看護実践および看護研究に活用する方法について検討する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第 1 回：看護理論とは ー理論ー研究ー実践ー <span style="float: right;">市江 和子</span></p> <p>第 2 回：看護理論・概念モデル・看護哲学 <span style="float: right;">市江 和子</span></p> <p>第 3 回：ナイチンゲールの看護理論 <span style="float: right;">市江 和子</span></p> <p>第 4 回：看護学の歴史の変遷 <span style="float: right;">市江 和子</span></p> <p>第 5 回：ケア/ケアリングの概念 <span style="float: right;">入江 拓</span></p> <p>第 6 回：看護実践に関わる主要概念 <span style="float: right;">入江 拓</span></p> <p>第 7 回：中範囲理論の概要 <span style="float: right;">大石ふみ子</span></p> <p>第 8 回：中範囲理論の活用 <span style="float: right;">大石ふみ子</span></p> <p>第 9 回：Orem 「セルフケア不足看護理論」の概要 <span style="float: right;">河口てる子</span></p> <p>第 10 回：Orem 「セルフケア不足看護理論」の活用 <span style="float: right;">河口てる子</span></p> <p>第 11 回：主な看護理論 1. <span style="float: right;"></span></p> <p>Nora J. Pender, Sister Callista Roy・市江和子・大石ふみ子・入江 拓・河口てる子</p> <p>第 12 回：主な看護理論 2. <span style="float: right;"></span></p> <p>Margaret A. Newman・市江和子・大石ふみ子・入江 拓・河口てる子</p> <p>第 13 回：主な看護理論 3. <span style="float: right;"></span></p> <p>Jean Watson, Madeleine M. Leininger・市江和子・大石ふみ子・入江 拓・河口てる子</p> <p>第 14 回：主な看護理論 4. <span style="float: right;"></span></p> <p>Patricia Benner etc.市江和子・大石ふみ子・入江 拓・河口てる子</p> <p>第 15 回：看護実践・看護研究における理論の活用 <span style="float: right;">市江 和子</span></p> <p> *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回 実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回</p>

学修方法	講義およびセミナー形式で授業を進める。				
評価方法	プレゼンテーション（50%）、課題レポート（50%）を総合して行う。				
課題に対するフィードバック	課題に対するフィードバックは、授業のなかでの討議を通して随時行う。 また、提出された課題レポートについては、振り返りの機会を設ける。				
指定図書	指定図書はありません。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	授業中に適宜紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	<p>事前学修：最初に授業計画を提示するので、担当する課題を決めて事前学修を行い、資料作成およびプレゼンテーションの準備をしてください（各回180分程度）。</p> <p>課題1．主要な中範囲理論について調べ発表・討議する（第7～8回）</p> <p>課題2．ひとりの看護理論家を取り上げて、発表・討議する（第11回～第14回）</p> <p>事後学修：課題で取り上げた事柄や授業内容について、自身の経験とも照らし合わせて考察し、レポートをまとめる。</p>				
オフィスアワー	<p>科目責任者：市江和子（看護学研究科）1712 研究室 メールアドレス：kazuko-i@seirei.ac.jp</p> <p>時間・連絡方法については初回授業時に提示します。</p>				

科目名	看護研究方法																																
科目責任者	檜原 理恵																																
単位数他	2単位 (30時間) 必修 春semester																																
科目の位置付	DP4. 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる。 DP5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。																																
科目概要	看護学における研究の重要性および量的研究方法・質的研究方法の概要について理解し、看護の質の向上をめざして研究活動を行うための基本的な知識を修得する。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究における文献検索の意義を理解し、具体的方法を学修する。</li> <li>2. さまざまな疑問から研究課題を明確化していくプロセスについて学修する。</li> <li>3. 量的研究についての一連のプロセス（概念枠組みの構築、研究デザイン・研究方法の選定、データの収集・分析）を理解する。</li> <li>4. 量的なデータの収集方法および測定用具の選択について学修する。</li> <li>5. 質的研究方法のプロセスを概観し、事例研究、質的記述的研究、その他さまざまな質的研究方法の理論的基盤と方法の概略について学ぶ。</li> <li>6. 質的研究方法の実際について学修する。</li> </ol>																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 看護における研究の重要性</td> <td style="text-align: right;">檜原 理恵</td> </tr> <tr> <td>第2回 文献検索の意義と方法 ・文献の読み方・文献レビュー</td> <td style="text-align: right;">檜原 理恵</td> </tr> <tr> <td>第3回 文献クリティーク</td> <td style="text-align: right;">檜原 理恵</td> </tr> <tr> <td>第4回 看護研究と倫理 佐久間 佐織</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回 研究課題と概念枠組み 佐久間 佐織</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回 研究計画書の作成 佐久間 佐織</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回 量的研究デザイン 西川 浩昭</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回 量的データの収集・測定用具の選択 西川 浩昭</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回 量的データの分析 西川 浩昭</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回 量的研究論文を読む 西川 浩昭</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回 質的研究の種類とその方法の概略 市江 和子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回 質的研究論文を読む 市江 和子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回 質的研究の実際 インタビュー 市江 和子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回 質的研究の実際 分析 市江 和子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回 尺度開発研究について 河口てる子</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。  双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回  実務家教員や実務家による授業：第1-6回、11-15回</p>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回 看護における研究の重要性	檜原 理恵	第2回 文献検索の意義と方法 ・文献の読み方・文献レビュー	檜原 理恵	第3回 文献クリティーク	檜原 理恵	第4回 看護研究と倫理 佐久間 佐織		第5回 研究課題と概念枠組み 佐久間 佐織		第6回 研究計画書の作成 佐久間 佐織		第7回 量的研究デザイン 西川 浩昭		第8回 量的データの収集・測定用具の選択 西川 浩昭		第9回 量的データの分析 西川 浩昭		第10回 量的研究論文を読む 西川 浩昭		第11回 質的研究の種類とその方法の概略 市江 和子		第12回 質的研究論文を読む 市江 和子		第13回 質的研究の実際 インタビュー 市江 和子		第14回 質的研究の実際 分析 市江 和子		第15回 尺度開発研究について 河口てる子	
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回 看護における研究の重要性	檜原 理恵																																
第2回 文献検索の意義と方法 ・文献の読み方・文献レビュー	檜原 理恵																																
第3回 文献クリティーク	檜原 理恵																																
第4回 看護研究と倫理 佐久間 佐織																																	
第5回 研究課題と概念枠組み 佐久間 佐織																																	
第6回 研究計画書の作成 佐久間 佐織																																	
第7回 量的研究デザイン 西川 浩昭																																	
第8回 量的データの収集・測定用具の選択 西川 浩昭																																	
第9回 量的データの分析 西川 浩昭																																	
第10回 量的研究論文を読む 西川 浩昭																																	
第11回 質的研究の種類とその方法の概略 市江 和子																																	
第12回 質的研究論文を読む 市江 和子																																	
第13回 質的研究の実際 インタビュー 市江 和子																																	
第14回 質的研究の実際 分析 市江 和子																																	
第15回 尺度開発研究について 河口てる子																																	

学修方法	講義およびセミナー形式で授業を進める。				
評価方法	プレゼンテーションおよび討議への参加度（50%）、課題レポート（50%）を総合して行う。				
課題に対するフィードバック	課題については、授業の中で討議する機会を設け、随時フィードバックを行う。				
指定図書	バーンズ&グローブ 看護研究入門（2023）エルゼビアジャパン				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	<p>南 裕子, 野嶋佐由美編(2017). 看護における研究, 第2版. 日本看護協会出版会.  グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江編著(2016). よくわかる質的研究の進め方・まとめ方, 第2版. 医歯薬出版.  坂下玲子他(2016). 系統看護学講座 別巻 看護研究. 医学書院.  Judith Garrard 安部陽子訳 (2015) 看護研究のための文献レビュー マトリックス方式, 医学書院  (他の参考書・文献は、授業の中で適宜紹介する)</p>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
APA 論文作成マニュアル 第3版	アメリカ心理学会 (APA)	医学書院	4200	9784260048125	
事前・事後学修	適宜、課題（文献検討、概念枠組みの構築、データの収集・分析等）を提示するので、自分の研究課題と関連付けながら準備してください（各回 180 分程度）。 課題レポート：自分の関心領域の研究論文を取り上げてクリティークを行う。				
オフィスアワー	極原理恵（1616 研究室） E-mail:rie-k@seirei.ac.jp 佐久間佐織（1618 研究室） E-mail:saori-s@seirei.ac.jp 西川浩昭（1620 研究室） E-mail:hiroaki-ni@seirei.ac.jp 市江和子（1712 研究室） E-mail:kazuko-i@seirei.ac.jp 河口てる子（1209 研究室） E-mail:teruko-k@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。				

科目名	看護倫理
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	DP (1) 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、看護分野の質の高い実践、教育・研究に反映することができる
科目概要	看護倫理の概念を明らかにするとともに、倫理的判断のよりどころとなる倫理上の基本原則ならびに看護者の倫理綱領、患者の権利などについて理解を深める。また看護実践および看護研究の倫理的課題・葛藤を探究するとともに、倫理的問題解決技法等を身につけることを通して看護における倫理的判断能力および関係者間での倫理的調整能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護倫理の概念を具体的に理解することができる。</li> <li>2. 看護の倫理原則、看護者の倫理綱領、患者の権利を理解し、これらに含まれる基本的概念を具体化できる。</li> <li>3. 看護実践および看護研究における倫理的問題・葛藤について問題解決技法等を活用して倫理的判断、倫理的調整を導くことができる。</li> </ol>
授業計画	<p>授業内容・テーマ等 <span style="float: right;">担当教員</span></p> <p>第1回：生命倫理の基本的考え方、倫理的問題・葛藤と責務 大石 ふみ子</p> <p>第2回：倫理的判断のよりどころ（倫理上の基本原則、倫理綱領他） 大石 ふみ子</p> <p>第3回：人を対象とする研究における倫理（1）・「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」について 乾 友紀</p> <p>第4回：人を対象とする研究における倫理（2）・研究者としての責務/APRIN e ラーニングプログラム 乾 友紀</p> <p>第5回：倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例①） 大石 ふみ子</p> <p>第6回：倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例②） 大石 ふみ子</p> <p>第7回：生命の始期にまつわる倫理的課題の検討 小笹 由香</p> <p>第8回：生命の始期にまつわる倫理的課題と看護：遺伝カウンセリング 小笹 由香</p> <p>第9回：小児と倫理 基礎的知識・理論 宮谷 恵</p> <p>第10回：小児と倫理 臨床での倫理的課題 宮谷 恵</p> <p>第11回 倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討（1）インフォームド・コンセント 藤浪 千種</p> <p>第12回：倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討（2）アドボカシー 藤浪 千種</p> <p>第13回：倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討（3）Quality of life 大石 ふみ子</p> <p>第14回：倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討（4）プライバシー 大石 ふみ子</p> <p>第15回 倫理的課題の事例・文献検討 まとめ 大石 ふみ子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。  双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回  実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p>

学修方法	講義、演習およびテーマにそった学生のプレゼンテーションを元に討議形式で進める。日々の実践で遭遇する倫理上の問題を取り上げ、倫理の基礎知識をもとにした倫理的判断の方法を学修する。感性を研ぎ澄まして日頃の実践をふりかえり、クラスで討議する事例を持って参加し、講義後は学修内容をふり返る。				
評価方法	1. 授業資料の準備とプレゼンテーション（発表）、討議への参加状況：60% 2. 提出物、課題レポート：40%				
課題に対するフィードバック	1. プレゼンテーションなどの授業資料の準備においては予め担当教員に相談し、講義の後にはフィードバックを受ける。 2. 討議の内容についてはクラス中に課題が明確になるようファシリテートする。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	これまでの倫理に関わる学修を振り返り、各課題において自分なりの「倫理」「倫理観」「倫理上の問題」に関する考えや、クラスで討議する事例を持ってクラスに臨んでください。また、日々の実践で遭遇する倫理上の問題を取り上げ、倫理の基礎知識をもとにした倫理的判断の方法についてクラス後に反復して考える。感性を研ぎ澄まして日頃の実践を振り返る。（事前・事後学修約 40 分）				
オフィスアワー	看護学研究科 宮谷 恵：月曜日 14:00～17:00 (1713 研究室) e-mail:megumi-m@seirie.ac.jp 看護学研究科 大石ふみ子：水曜日 11:45～13:00 (1219 研究室) e-mail:fumiko-o@seirei.ac.jp 看護学研究科 乾 友紀：水曜日 11:45～13:00 (1218 研究室) e-mail:yuki-i@seirei.ac.jp 看護学研究科 藤浪 千種：水曜日 11:45～13:00 (1208 研究室) e-mail:chigusa-f@seirei.ac.jp				

科目名	看護管理論
科目責任者	鶴田 恵子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身につけ、看護学分野の質の高い実践、教育・研究に反映することができる
科目概要	看護管理学の諸理論及び看護管理過程について学修し、看護管理のありかたを探求する。 看護管理学の視点から高度実践看護師や特定行為研修修了者の活用の在り方を探求する。
到達目標	課題を解決するために、既存のシステムのみならず新たなシステムを構築し、マネジメントできる方策について説明することができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：ガイダンス、看護サービスの質管理(1) 管理と看護サービス</p> <p>第 2 回：看護サービスの質の管理(2) 看護サービス管理</p> <p>第 3 回：看護サービスの質管理(3) 看護サービスの質保証と評価・改善</p> <p>第 4 回：ヘルスケアシステム論(1) 社会保障の概念</p> <p>第 5 回：ヘルスケアシステム論(2) 保健医療福祉制度とヘルスケアシステム</p> <p>第 6 回：人材管理論(1) 専門職業人とキャリア</p> <p>第 7 回：人材管理論(2) 人材の育成と活用</p> <p>第 8 回：人材管理論(3) 人事システムと賃金体系</p> <p>第 9 回：看護サービスの質の管理(4) 看護サービスの質管理と記録</p> <p>第 10 回：看護サービス管理の質管理(5) 看護サービスと研究</p> <p>第 11 回：米国の看護管理の論点(1)</p> <p>第 12 回：専門看護師の活用</p> <p>第 13 回：米国の看護管理の論点(2)</p> <p>第 14 回：看護師の特定行為研修と看護管理</p> <p>第 15 回：「看護管理論」で学んだことと疑問</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。          双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回          実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回</p>

学修方法	授業は、講義、プレゼンテーション、テーマを中心にディスカッションを重視するために、資料を事前に提示する。				
評価方法	授業への積極的な取り組み(発言)30%、プレゼンテーションの内容と態度30%、課題レポート40%				
課題に対するフィードバック	課題レポートにコメントを記載し返却する。				
指定図書	増野園恵 編集：看護管理学習テキスト第3版 第1巻 ヘルスケアケアシステム論、日本看護協会出版会、2024。 秋山智弥 編集：看護管理学習テキスト第3版 第2巻 看護サービスの質管理、日本看護協会出版会、2024。 手島恵 編集：看護管理学習テキスト第3版 第3巻 人材管理論、日本看護協会出版会、2024。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	看護管理学習テキスト第3版 (全5巻+別巻) Eleanor J.Sullivan:Effective Leadership and management in Nursing Ninth Edition, Pearson, 2017.				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	授業の前に、事前に資料を読み、質問を用意する。				
オフィスアワー	鶴田恵子 E-mail : keiko.tsuru70@gmail.com				



科目名	看護政策論
科目責任者	檜原 理恵
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(1)「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践及び自らの行動に反映することができる。
科目概要	政策策定およびその施行の過程や、政策に働きかける方策について、看護及び保健医療福祉行政の実践を踏まえて理解し、看護の質を向上させるための看護政策の在り方や制度等を改善していく方策及び、近年の看護政策の課題や動向について修得する。
到達目標	1. 看護政策の策定・施行過程を理解する。 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観に基づいて、近年の保健医療福祉政策の実践と今後の課題について理解し、検討する。 これからの看護実践を、「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観に基づいて、向上させるために、政策上の方策を検討し、理解する
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float:right">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第 1 回： ガイダンス及び看護政策および政策立案過程 <span style="float:right">檜原理恵・川村佐和子</span></p> <p>第 2 回： 看護保健医療政策の事例に基づく看護政策過程の諸型 <span style="float:right">川村佐和子</span></p> <p>第 3 回： 看護政策における看護職の活動 <span style="float:right">勝又浜子</span></p> <p>第 4 回： 専門職脳団体からみた今後の看護保健福祉政策の課題 <span style="float:right">勝又浜子</span></p> <p>第 5 回： 新たな医療のあり方における看護の重要性と役割 特別講師 後藤友美</p> <p>第 6 回： 当面する看護課題と看護政策からのアプローチ <span style="float:right">後藤友美</span></p> <p>第 7 回： わが国における医療政策及び看護政策の変遷 <span style="float:right">後藤友美</span></p> <p>第 8 回： 国及び地方行政における保健福祉政策① <span style="float:right">加藤典子</span></p> <p>第 9 回： 国及び地方行政における保健福祉政策② <span style="float:right">加藤典子</span></p> <p>第 10 回： 保健福祉政策における保健師の役割と政策評価 特別講師 村嶋幸代</p> <p>第 11 回： 看護政策（地方行政）に看護職が果たす役割 <span style="float:right">渡邊昌子</span></p> <p>第 12 回： 在宅看護の推進に関する政策と課題 特別講師 松井順子</p> <p>第 13 回： 聖隷事業団における看護職の活動 <span style="float:right">松井順子</span></p> <p>第 14 回： 修士課程修了者として、看護政策にどのように取り組むか① <span style="float:right">川村佐和子</span> 檜原理恵</p> <p>第 15 回： 修士課程修了者として、看護政策にどのように取り組むか② <span style="float:right">川村佐和子</span> 檜原理恵 (まとめの討論)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回 実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回</p>

学修方法	講義、プレゼンテーション, 討論 ※講義の順番は、講師の都合などで変わることがあります。				
評価方法	討論への参加状況 (40%)、レポート (60%)				
課題に対するフィードバック	レポート課題に対応して、全体に対するコメントを記載し、配布する。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
看護六法令和5年版2023	看護行政研究会	新日本法規出版	4000	9784788291324	
参考書	授業時に提示します				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	事前学習：保健師助産師看護師法、医療法、地域保健法、介護保険法などを通読し、これら法律に関係する近年の制度改正や通知文を見つけ読み、看護政策について思考を深めておくこと。 (各1時間) 事後学習：各授業において学習した内容を自身の実践や考えと重ねて熟考し、自身の考えを確かなものにする。(各1時間)				
オフィスアワー	榎原理恵 1616 研究室 時間は、事前連絡(メール)により、院生の都合に合わせて調整します。 ※講義の順番は、講師の都合などで変わることがあります。				

科目名	看護コンサルテーション論
科目責任者	宮谷 恵
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる
科目概要	コンサルテーションの概念・実践モデル・プロセスを明らかにし、毎回の講義および、ディスカッションを通して、提供される事例をもとに実践における課題や困難を具体的に知り、問題を解決するための知識や、状況に対する俯瞰力を養いながら、看護コンサルテーションを展開するための能力を習得する。
到達目標	1. コンサルテーションの概念、分類、実践モデル、プロセスを理解する。 2. 高度実践看護師の実践経験を通じて、コンサルテーションの意義、コンサルタントの役割と求められる技能、個人及び組織を対象とする実践とその評価方法について理解する。 3. コンサルテーションの事例分析を通じて、看護実践における課題や困難、問題を解決するためのコンサルテーションの具体的な展開方法について探求する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;宮谷恵、市江和子、大石ふみ子、乾友紀</p> <p>第1回：コンサルテーションの概念とコンサルタントの役割 宮谷恵 第2回：コンサルテーションの構造モデル・タイプ・役割 大石ふみ子 用いられる理論と技術</p> <p>第3回：コンサルテーションのプロセス 大石ふみ子 コンサルテーションの過程と段階</p> <p>第4回：専門看護師の役割と機能 市江和子</p> <p>第5回：看護実践におけるコンサルテーションの現状と課題 高橋淳子 第6回：コンサルテーションの実践モデル 大木純子 事例を通じたコンサルテーションモデルの選択の判断</p> <p>第7回：患者中心のコンサルテーションの実際① 高橋淳子 精神看護に関する事例検討と討議</p> <p>第8回：患者中心のコンサルテーションの実際② 桑原美香 急性・重症患者看護に関する事例検討と討議</p> <p>第9回：コンサルティ中心のコンサルテーションの実際 大木純子 事例を通じたコンサルティの専門機能の向上</p> <p>第10回：コンサルテーションにおける教育的役割 大木純子 事例を通じたコンサルタントの教育的役割の実際と要点</p> <p>第11回：組織におけるコンサルテーション 佐久間由美 事例を通じた組織への介入の実際と要点</p> <p>第12回：組織を対象とするコンサルテーションの実際 佐久間由美 事例を通じた組織への介入のプロセスの実際と要点</p> <p>第13回：看護管理者と専門看護師の連携 佐久間由美 事例を通じた看護管理者と専門看護師の連携のプロセスの実際と要点</p> <p>第14回：コンサルテーションの事例分析と展開方法 プレゼンテーション・討議 佐久間由美、宮谷恵、市江和子、大石ふみ子、乾友紀</p> <p>第15回：コンサルテーションの事例分析と展開方法 プレゼンテーション・討議・まとめ 佐久間由美、宮谷恵、市江和子、大石ふみ子、乾友紀</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 実務家教員による授業：第1-4回 実務家教員や実務家による、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業：第5-15回</p>

学修方法	「講義」「講義をうけての討論による論点整理」「論点をレポートにより深める」「プレゼンテーション」				
評価方法	ディスカッションへの参加度及び、プレゼンテーション (60%)、授業後レポート (40%)				
課題に対するフィードバック	出されたレポートに対して適宜コメントを返却します。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
プロセス・コンサルテーション 2002	E. H. シャイン	白桃書房	4000	9784561131403	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川野雅資：コンサルテーションを学ぶ 改訂版，クオリティケア，2017</li> <li>・岩田健太郎：コンサルテーション・スキル Ver.2「選択肢」から「必然」のチーム医療へ，南江堂，2020</li> <li>・E. H. シャイン著，金井壽宏監訳：謙虚なコンサルティング，英治出版，2017</li> </ul>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	授業により事前に関連資料（事例等）を配布、または指定図書の該当箇所を提示する。各自文献を入手し、該当箇所を読んで授業に参加する。毎回 60 分程度の事前・事後学習（授業後レポートの作成）を習慣づけてください。				
オフィスアワー	看護学研究科 宮谷 恵：月曜日 14:00～17:00 (1713 研究室) e-mail:megumi-m@seirie.ac.jp 看護学研究科 市江和子：金曜日 8:50～11:45 (1712 研究室) e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp 看護学研究科 大石ふみ子：水曜日 11:45～13:00 (1219 研究室) e-mail:fumiko-o@seirei.ac.jp 看護学研究科 乾 友紀：水曜日 11:45～13:00 (1218 研究室) e-mail:yuki-i@seirei.ac.jp				

科目名	フィジカルアセスメント	
科目責任者	和田 由樹	
単位数他	2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択 ・ 専門看護師プログラム 必修 春	
科目の位置付	2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる	
科目概要	看護学の視点から複雑な健康問題をもつ対象の身体状況を系統的に診査し、臨床判断を行うために必要な知識と包括的なフィジカルアセスメント技術を修得する。	
到達目標	1. フィジカルアセスメントに必要な知識に基づいた技術を学修し、患者の身体状況の診査技術を身につける。 2. 複雑な健康問題をもつ患者のフィジカルアセスメントに基づき、看護学の視点から、患者の健康状態の臨床判断について検討する。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 フィジカルアセスメントの目的と面接技法・基本技術 第2回 呼吸器系アセスメント―機能・診察方法― 第3回 呼吸器系アセスメント―X P等検査データの読み方― 第4回 循環器系アセスメント―機能・診察方法― 第5回 循環器系アセスメント―心電図等検査データの読み方― 第6回 腎・泌尿器系アセスメント―機能・診察方法― 第7回 腎・泌尿器系アセスメント―X P等検査データの読み方― 第8回 消化器系アセスメント―機能・診察方法― 第9回 消化器系アセスメント ―内視鏡等検査データの読み方― 第10回 脳神経系アセスメント―機能・診察方法（腱反射等）― 第11回 脳神経系アセスメント―C T等検査データの読み方― 第12回 筋骨格系アセスメント―機能・診察方法（徒手筋力テスト等）― 第13回 筋骨格系アセスメント―X P等検査データの読み方― 第14回 事例を用いたフィジカルアセスメントの実際① 第15回 事例を用いたフィジカルアセスメントの実際②  *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回 実務家教員や実務家による授業：第1-15回	<担当教員名> 和田 由樹 横村 光司 横村 光司 若林 康 若林 康 三崎 太郎 三崎 太郎 藤田 博文 藤田 博文 佐藤 晴彦 佐藤 晴彦 吉田 正弘 吉田 正弘 和田 由樹 和田 由樹

学修方法	講義、演習、セミナー形式で授業を進める。				
評価方法	演習・ディスカッションへの参加度及びプレゼンテーション 60% 課題レポート 40%				
課題に対するフィードバック	課題については随時フィードバックを行う。				
指定図書	指定図書はありません。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	授業中に適宜、紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	第2～13回： 事前に書籍や文献を読んで授業に参加する 事後学修として授業内容を振り返り、必要な学習を行う 必要時実習室のシミュレーターを用いて各自で復習する 第14・15回： 事前に提示された事例の臨床推論に必要な学習をする 問診、フィジカルイグザミネーションの技術を習得しておく				
オフィスアワー	初回の授業に提示する。				

科目名	病態生理学	
科目責任者	乾 友紀	
単位数他	2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択 ・ 専門看護師プログラム 必修 春	
科目の位置付	DP2 エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。	
科目概要	看護の高度実践における問題解決に向けて必要なアセスメントを行うための、医学的根拠となる病態学的変化やその機序について学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん、急性疾患、慢性疾患、老年期、小児など看護の対象者におこる病態学的変化についての重要な病変とその機序について理解する。</li> <li>2. 臨床上重要な共通の特徴的な病理学的変化についてアセスメントの要点が理解でき、説明できる。</li> <li>3. 病態学的根拠に基づいて高度な臨床判断および看護介入方法を考案する基礎を身につける。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt; 授業内容・テーマ等 &gt;</p> <p>第1回 臨床病態学における最近の動向</p> <p>第2回 細胞の病態学的変化とアポトーシス</p> <p>第3回 炎症とその機序</p> <p>第4回 免疫とその機序</p> <p>第5回 感染症とその機序</p> <p>第6回 腫瘍とその機序</p> <p>第7回 慢性疾患に特有の病態</p> <p>第8回 小児の成長発達にともなう病理的現象</p> <p>第9回 高齢者の身体的・生理学的特徴</p> <p>第10回 腎・泌尿器系疾患に特有の病態</p> <p>第11回 高齢者の精神疾患に特有の病態</p> <p>第12回 循環器系疾患に特有の病態</p> <p>第13回 神経・運動疾患に特有の病態</p> <p>第14回 糖尿病に特有の病態</p> <p>第15回 病態アセスメントにもとづく看護介入</p>	<p>&lt; 担当教員名 &gt;</p> <p>山本 昌市</p> <p>山本 昌市</p> <p>大林 雅春</p> <p>平野 功</p> <p>平野 功</p> <p>平野 功</p> <p>片桐 伯真</p> <p>白井 憲司</p> <p>佐藤 晶子</p> <p>松島 秀樹</p> <p>磯貝 聡</p> <p>若林 康</p> <p>佐藤 慶史郎</p> <p>山本真矢</p> <p>山本真矢・乾友紀</p>
	<p>※この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> <p>実務家教員や実務家による授業：第1～15回</p> <p>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第14-15回</p>	

学修方法	講義およびセミナー方式で授業を進めます。				
評価方法	プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加度（毎回の授業過程における提出物を含む）(60%)、 最終課題レポート(40%)				
課題に対するフィードバック	課題や事前学修の内容については、授業のなかで随時フィードバックします。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	「感染症まるごとこの1冊」矢野晴美 著 (2015), 南山堂 [感染] 「病気が見える Vol.7 脳・神経」医療情報科学研究所 編 (2011), メディカル・サイエンス・インターナショナル [神経・精神] 「死亡直前と看取りのエビデンス」森田達也 他著 (2015), 医学書院 [高齢者] 「家族と迎える『平穏死』」石飛幸三著 (2014), 廣濟堂出版 [高齢者] 「糖尿病治療の手引き 2020」日本糖尿病学会 編著 (2020), 南山堂 [糖尿病] 「高齢者救急」岩田充永著 (2010), 医学書院 その他、授業で適宜紹介する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第2版】 カラー図解 症状の基礎 からわかる 病態生理	松尾理 / 監訳 Stefan Silber nagl / [著] Florian Lang / [著]	メディカル・サイ エンス・インター ナショナル	6200	9784895926881	
事前・ 事後学修	事前学修：毎回、授業計画に示した内容について事前に自己学修し、討議用資料を作成して授業に参加してください。(各回 60 分程度)。 事後学修：毎回の授業内容のサマリーを作成してください (各回 60 分程度)。 最終課題レポート：事例の病態学的根拠に基づいたアセスメントの作成				
オフィス アワー	科目責任者：乾友紀 1217 研究室 メールアドレス：yuki-i@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。				



科目名	臨床薬理学
科目責任者	市江 和子
単位数他	2単位 (30時間) 修士論文コース 選択・専門看護師プログラム 必修 秋
科目の位置付	(2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる
科目概要	緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理を必要とする対象者におこる薬物の薬理学的変化の機序を学び、薬物使用の判断及び投与後の患者モニタリングと安全管理について理解する。また、これらを基盤として、患者の生活調整・服薬管理に関わる看護アセスメントとそれらの能力の向上のための看護支援について検討する。
到達目標	1. 臨床での使用頻度の高い薬物を取り上げ、薬物の分子構造、薬効、適応、容量、用法、身体内での薬物動態について理解する。 2. 臨床で使用する頻度の高い薬物を投与した後の患者モニタリングと薬物の安全管理について理解する。 3. 1・2に基づいて、患者の生活調整・服薬管理状況に関わる看護アセスメントについて学ぶ。 4. 3に基づき、患者の生活調整・服薬管理の能力の向上を図るための看護支援を検討する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回 薬物動態 松島 秀樹</p> <p>第2回 感染制御と抗生物質 松島 秀樹</p> <p>第3回 医薬品医療機器等法に基づく医薬品の取り扱い 中道 秀徳 薬理作用と適応および患者モニタリング①～⑥</p> <p>第4回 循環器疾患治療薬 ゲストスピーカー 鈴木志歩・市江 和子</p> <p>第5回 呼吸器疾患治療薬 ゲストスピーカー 古橋侑樹・市江 和子</p> <p>第6回 糖尿病治療薬 ゲストスピーカー 田中美樹・市江 和子</p> <p>第7回 こころの疾患に用いる治療薬 奥村 知香</p> <p>第8回 免疫抑制薬・副腎皮質ホルモン薬 ゲストスピーカー 大井優・市江和子</p> <p>第9回 疼痛治療薬 (NSAIDs、オピオイド鎮痛薬等) ゲストスピーカー 高科 嘉章・市江 和子</p> <p>第10回 抗悪性腫瘍薬の管理と暴露について ゲストスピーカー 松川陽央・市江 和子</p> <p>第11回 小児・高齢者に用いるときの薬理作用 ゲストスピーカー 寺田 操・市江 和子</p> <p>第12回 妊娠期～授乳期に用いるときの薬理作用 ゲストスピーカー 田原みどり・市江和子</p> <p>第13回 臨床試験 (治験を含む) と看護師の役割 ゲストスピーカー 高山 京子・市江 和子</p> <p>第14-15回 アセスメントに基づく看護支援 ① 生活調整・服薬管理状況についてのアセスメントとそれらの能力の向上を図るための看護支援 市江 和子 ② 事例を用いて検討 市江 和子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2-15回 実務家教員や実務家による授業：第1-12回</p>

学修方法	講義、プレゼンテーション、討議により授業を進める。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション及び討議への参加度(60%)</li> <li>・毎回の授業過程における提出物および最終課題レポート(40%)</li> </ul>				
課題に対するフィードバック	個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。				
指定図書	指定図書はありません。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	授業中に適宜紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	<p>事前学修（各回 120 分程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1～13 回：授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する。</li> <li>・第 14～15 回：事例を提示し、患者・家族の状況（経過）、薬理学的知識を活用したアセスメント（解釈・分析）、看護問題、目標およびアウトカム指標、看護計画、実施後の評価等をまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。</li> </ul> <p>事後学修（各回 60 分程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1～13 回：毎回の授業内容のサマリーを作成する。</li> <li>・第 14～15 回：プレゼンテーションを通して各自の事例内容を深め、薬</li> </ul>				
オフィスアワー	<p>科目責任者：市江和子（看護学研究科）1712 研究室 メールアドレス：kazuko-i@seirei.ac.jp</p> <p>時間・連絡方法については初回授業時に提示します。ご用の方はメールで連絡してください。</p>				

科目名	臨床病態生理学・疾病概論
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	2 単位 (60 時間) プライマリケア NP プログラム 必修 春
科目の位置付	(2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる
科目概要	<p>(放送大学大学院単位互換科目)</p> <p>臨床解剖学および臨床生理学、さらには臨床病理学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断できるよう必要な知識と技術を学修する。また、主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主要疾病の病態と臨床診断・治療の概論 脳血管障害／急性心筋梗塞／糖尿病／精神疾患</li> <li>2. その他の主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系／呼吸器系／消化器系／腎泌尿器系／内分泌・代謝系／免疫・膠原病系／血液・リンパ系／神経系／小児科／産婦人科／精神系／感染症／運動器系／感覚器系／その他</li> <li>3. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習</li> <li>4. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習</li> </ol> <p>※看護師の特定行為研修制度の対応科目のひとつであり、精錬化による時間数の減少に対応して、『臨床病態生理学特論』と『疾病・臨床病態概論』を統合し、再構築した科目である。</p>
到達目標	<p>看護師が適切に臨床実践するに際して、多様な臨床場面において、ケアを安全に実践するために、重要な病態の変化や必要となる治療の特性を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な疾患に関わる臓器の機能異常を説明できる。</li> <li>・代表的な疾患の病態や全身に及ぼす影響を説明できる。</li> <li>・代表的な疾患の病態の発症と治療について説明できる。</li> <li>・多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントできる。</li> <li>・多様な臨床場面において必要な治療を理解し、ケアを導くことができる</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 臨床病理学総論</p> <p>第2回 臨床解剖学および臨床生理学各論 (I) 呼吸器・循環器系、酸素運搬と赤血球、腎臓</p> <p>第3回 臨床解剖学および臨床生理学各論 (II) 栄養の消化吸収と代謝およびその調節機構”</p> <p>第4回 臨床解剖学および臨床生理学各論 (III) 感覚器・中枢および末梢神経系</p> <p>第5回 臨床解剖学および臨床生理学各論 (IV) 皮膚、粘膜、骨および運動器系、泌尿器・生殖器系、血液成分と止血・凝固線溶系</p> <p>試験</p> <p>第6回 脳血管疾患</p> <p>第7回 糖尿病</p> <p>第8回 精神疾患/精神系疾患/神経系疾患</p> <p>第9回 循環器疾患/心筋梗塞</p> <p>第10回 消化器疾患/呼吸器疾患/感染症</p> <p>第11回 免疫・膠原病/血液疾患/腎・泌尿器疾患</p> <p>第12回 内分泌疾患</p> <p>第13回 運動器疾患/感覚器疾患/産婦人科疾患/小児科疾患</p> <p>試験</p> <p>第14回 救急医療の臨床診断・治療の特性</p> <p>第15回 在宅医療の臨床診断・治療の特性</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> <p>実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p>

学修方法	<p>※放送大学によるオンライン授業である。</p> <p>※単位修得できなかった場合の再試験制度はない。</p> <p>※この科目を履修するにあたっては「臨床推論」「フィジカルアセスメント特論」「臨床薬理学特論」「統合医療安全・特定行為実践特論」などの科目とあわせて履修することが望ましい。</p>				
評価方法	<p>ディスカッション、レポートを含む演習(20%)、小テスト(40%)、および最終テスト(40%)の総合評価により行う。なお、最終テストを受験するには演習課題をすべて提出する必要がある。</p>				
課題に対するフィードバック					
指定図書	放送大学大学院シラバス参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	放送大学大学院シラバス参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修					
オフィスアワー					

科目名	臨床推論
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	1 単位 (30 時間) プライマリケア NP プログラム 必修 春
科目の位置付	(2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる
科目概要	<p>(放送大学大学院単位互換科目)</p> <p>看護師が特定行為を行う場合に必要とされる実践能力の基礎となる知識・技能の向上を図るために、臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学について学ぶ。</p> <p>以下の内容を含む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床推論とは</li> <li>2. 診療のプロセス</li> <li>3. 臨床推論 (症候学を含む) の理論</li> <li>4. 医療面接の理論</li> <li>5. 各種臨床検査の理論</li> <li>6. 画像検査の理論</li> <li>7. 臨床疫学の理論</li> <li>8. まとめ—EBM、生涯教育と行動の学習</li> </ol>
到達目標	<p>看護師が適切に臨床実践するに際して、対象の身体的情報を的確に捉え、それらを臨床場面における推論に結びつけていく必要がある。本科目においては看護師が適切に臨床実践するに際して、多様な臨床場面において必要な治癒を理解し、ケアを導くための基本的な能力を身につけることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床推論の基本的な考え方について説明できる</li> <li>2. 症例に関する情報の収集・分析ができる</li> <li>3. 得られた情報をもとにその症例の問題点を抽出できる</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 臨床推論とは</p> <p>第2回 診療のプロセスについて</p> <p>第3回 臨床推論 (症候学を含む) の理論</p> <p>第4回 医療面接の理論</p> <p>第5回 各種臨床検査の理論</p> <p>第6回 画像検査の理論</p> <p>第7回 臨床疫学の理論</p> <p>第8回 まとめ—EBM、生涯教育と行動の学習について</p> <p>試験</p> <p>演習 「特定行為共通科目統合演習」 参照</p> <p>実習 「特定行為共通科目統合実習」 参照</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 実務家教員や実務家による授業：第1-8回</p>

学修方法	<p>※放送大学によるオンライン授業である。</p> <p>※単位修得できなかった場合の再試験制度はない。</p> <p>※この科目を履修するにあたっては「統合医療安全・特定行為実践特論」「フィジカルアセスメント特論」などの科目とあわせて履修することが望ましい。</p> <p>※演習 14 時間は「特定行為共通科目統合演習」である。</p> <p>※実習 2 時間は「特定行為共通科目統合実習」である。</p>				
評価方法	<p>小テストおよび最終テスト(50%)</p> <p>実習は観察評価 (50 %)</p>				
課題に対するフィードバック					
指定図書	放送大学大学院シラバス参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	放送大学大学院シラバス参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修					
オフィスアワー					

科目名	フィジカルアセスメント特論 I
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	1 単位 (30 時間) プライマリケア NP プログラム 必修 春
科目の位置付	(2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる
科目概要	<p>(放送大学大学院単位互換科目)</p> <p>看護師が適切に特定行為を遂行するために欠かすことのできない身体面に関する情報収集の方法論と所見の解釈についての理論と技能を習得することを目指す。以下の内容を含む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体診察基本手技の理論</li> <li>2. 部位別身体診察手技と所見の理論 全身状態とバイタルサイン／頭頸部／胸部／腹部／四肢・脊柱／泌尿・生殖器／乳房・リンパ節／神経系</li> <li>3. 身体診察の年齢による変化 小児／高齢者</li> <li>4. 状況に応じた身体診察 救急医療／在宅医療</li> </ol>
到達目標	<p>看護師が適切に臨床実践するに際して、対象の身体的情報を的確に捉え、それらを臨床場面における推論に結びつけていく必要がある。本科目においては生活者として「生きていく」ための身体機能のアセスメントを進め生活者を支える看護活動への指針を与えることができるようになるとともに、その根本にある生命体として「生きている」ことをモニタリングし、その逸脱の早期発見と適切な対処への連携を着実に果たせる医療者としての責務を果たすことができるようになることを目指し、それに不可欠な知識および技能の理論を学ぶ。このことを通して、</p>
授業計画	<p>第1回 フィジカルアセスメントの進め方・臨床推論／バイタルサイン</p> <p>第2回 呼吸のフィジカルアセスメント</p> <p>第3回 循環のフィジカルアセスメント</p> <p>第4回 栄養・消化系・泌尿器系のフィジカルアセスメント</p> <p>第5回 中枢神経系のフィジカルアセスメント</p> <p>第6回 感覚系のフィジカルアセスメント</p> <p>第7回 運動系のフィジカルアセスメント</p> <p>第8回 発達課題・場面に応じたフィジカルアセスメント</p> <p>試験</p> <p>演習 「特定行為共通科目統合演習」参照</p> <p>実習 「特定行為共通科目統合実習」参照</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 実務家教員や実務家による授業：第1-8回</p>

学修方法	<p>※受講にあたっては上記指定図書での自己学習を必須とする。</p> <p>※放送大学によるオンライン授業である。</p> <p>※単位修得できなかった場合の再試験制度はない。</p> <p>※この科目を履修するにあたっては「臨床推論」などの科目とあわせて履修することが望ましい。</p> <p>※演習 10.4 時間は「特定行為共通科目統合演習」である。</p> <p>※実習 4 時間は「特定行為共通科目統合実習」である。</p>				
評価方法	<p>小テストおよび最終テスト (50%)</p> <p>実習は観察評価 (50%)</p>				
課題に対するフィードバック					
指定図書	<p>『フィジカルアセスメントガイドブックー目と手と耳でここまでわかる』山内豊明／医学書院；第2版 (2011/12/9)を使用する。</p> <p>放送大学大学院シラバス参照</p>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	<p>放送大学大学院シラバス参照</p>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修					
オフィスアワー					



科目名	フィジカルアセスメント特論Ⅱ
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	1 単位 (30 時間) プライマリケア NP プログラム 必修 春
科目の位置付	(2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる
科目概要	プライマリケア NP が療養生活支援の専門職として、隣人愛の倫理性をもとに、療養者の生活の質を向上させる意義を考える。また、プライマリケア NP に求められる能力、役割、責任に関する知識を習得し、プライマリケア NP としての自身の看護実践の展望を考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 療養生活支援看護におけるプライマリケア NP の役割と意義を説明できる</li> <li>2. 特定行為を含む高度看護実践が療養者の健康維持回復、生活の質向上にどのように貢献できるかについて考えを述べるができる</li> <li>3. 多職種協働におけるプライマリケア NP の役割について説明できる</li> <li>4. プライマリケア NP に必要なコンサルテーションの理論と実践について説明できる</li> <li>5. 高度看護実践における医療倫理の理論と実践について理解できる</li> <li>6. 高度看護実践における看護マネジメントの理論、実践について理解できる</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 療養生活支援看護とは 診療看護師 (NP) 制度と看護師特定行為研修制度 川村佐和子</p> <p>第2回 診療看護師 (NP) の役割と責任 橋積亜希子</p> <p>第3回 高度実践看護とは 一日米の比較— エクランド源雅子</p> <p>第4回 プライマリケアとは 井上真知子</p> <p>第5回 プライマリケアの実践に触れる① 松田真和 他</p> <p>第6回 プライマリケアの実践に触れる② 松田真和 他</p> <p>第7回 プライマリケア看護とは 中山法子</p> <p>第8回 プライマリケアにおける多職種協働 —チーム医療における診療看護師 (NP) の役割 中山法子</p> <p>第9回 高度看護実践における倫理的課題 エクランド源雅子</p> <p>第10回 医療安全における診療看護師 (NP) の役割 田口実里</p> <p>第11回 高度実践看護師によるコンサルテーションの理論と実践 エクランド源雅子</p> <p>第12回 高度看護実践における組織的アプローチ (組織分析) の理論と方法 鶴田恵子</p> <p>第13回 高度看護実践における組織的アプローチ (組織分析) の実際 鶴田恵子</p> <p>第14回 医療経済 看護実践における経済性、経営 鶴田恵子</p> <p>第15回 プライマリケア NP としての展望 プレゼンテーション・ディスカッション 榎原理恵・佐久間佐織</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回 実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p>

学修方法					
評価方法	レポート 40%、プレゼンテーション 40%、授業への参加度 20%				
課題に対するフィードバック	課題については、授業の中で討議する機会を設け、随時フィードバックを行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	適宜、授業内で紹介する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	毎回の授業内容に関して主体的に議論できるように自身の考えおよび資料等の準備をしておく。				
オフィスアワー	橋積亜希子： 檜原 理恵：1616 研究室 随時 【連絡先】 rie-k@seirei.ac.jp 佐久間佐織：1618 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp				

科目名	臨床薬理学特論 I
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	1 単位 (45 時間) プライマリケア NP プログラム 必修 春
科目の位置付	(2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる
科目概要	<p>(放送大学大学院単位互換科目)</p> <p>薬理学・薬剤学の基礎知識を深め、主要な疾患別の治療薬ならびに予防薬の薬効、作用機構、副作用、リスクマネジメント等、臨床における薬物の理論と実際について学習する。また、小児、女性、高齢者等、年齢による特性、個体差のある薬理作用と主要薬物の安全管理を学ぶ。以下の内容を含む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物動態の理論と演習</li> <li>2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習</li> <li>3. 主要薬物の相互作用の理論と演習</li> <li>4. 主要薬物の安全管理と処方理論と演習 ※年齢による特性 (小児/高齢者) を含む</li> </ol>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬理学・薬剤学の基礎知識を深め、薬物治療の基本概念を理解できる。</li> <li>2. 薬物の作用機序、生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係を説明できる。</li> <li>3. 各種疾病の病態生理や病状を考慮した上で、薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の使用方法を検討できる。</li> <li>4. 主要薬物の安全管理と処方理論を理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 薬理学総論</p> <p>第2回 薬理学各論 (1) 末梢神経、中枢神経に作用する薬物</p> <p>第3回 薬理学各論 (2) 抗炎症薬、抗アレルギー薬、呼吸器系、消化器系に作用する薬物</p> <p>第4回 薬理学各論 (3) 心血管系、血液系に作用する薬物</p> <p>第5回 薬理学各論 (4) 内分泌系、代謝系、泌尿生殖器系に作用する薬物</p> <p>第6回 薬理学各論 (5) 感染症に使用する薬物、消毒薬</p> <p>第7回 薬理学各論 (6) 抗がん薬、緩和ケア、漢方薬</p> <p>第8回 主要薬物の安全管理と処方理論</p> <p>試験</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> <p>実務家教員や実務家による授業：第1-8回</p>

学修方法	<p>※放送大学によるオンライン授業である。</p> <p>※単位修得できなかった場合の再試験制度はない。</p> <p>※この科目を履修するにあたっては「統合医療安全・特定行為実践特論」「臨床推論」「フィジカルアセスメント特論」「統合臨床病態生理学・疾病概論」などの科目とあわせて履修することが望ましい。</p>				
評価方法	<p>ディスカッション、レポートを含む演習(20%)、小テスト(40%)および最終テスト(40%)。なお、最終テストを受験するには演習課題をすべて提出する必要がある。</p>				
課題に対するフィードバック					
指定図書	放送大学大学院シラバス参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	放送大学大学院シラバス参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修					
オフィスアワー					

科目名	臨床薬理学特論Ⅱ
科目責任者	橋積 亜希子
単位数他	2単位 (30時間) プライマリケア NP プログラム 必修 春
科目の位置付	(2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる
科目概要	薬理学の基礎知識を深め、臨床における薬物の理論と実際について学習する。具体的には、小児、高齢者、妊娠期から授乳期、がん治療や緩和ケア、腎機能・肝機能障害といった年齢や病態による薬物使用の実際や、薬物療法における安全管理と処方にあたっての留意点について学ぶ。高度実践看護師として、薬物療法を受ける対象に対する実践的な観察力、判断力を高めることを目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病態や疾患による特性を考慮して薬理的根拠に基づいた治療薬の使用方法を検討できる</li> <li>2. 年齢による特性を考慮して薬理的根拠に基づいた治療薬の使用方法を検討できる</li> <li>3. 薬物療法における安全管理と処方の理論を理解できる</li> <li>4. 薬物療法を受ける対象に対する高度実践看護師の役割を説明できる</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 薬物相互作用 ポリファーマシー</p> <p>第2回 睡眠薬の管理、モニタリング</p> <p>第3回 代謝系疾患の薬物管理、モニタリング</p> <p>第4回 内分泌系疾患の薬剤管理、モニタリング</p> <p>第5回 消化器系疾患の薬剤管理、モニタリング</p> <p>第6回 がん治療の薬剤管理、モニタリング</p> <p>第7回 緩和ケアの薬剤管理、モニタリング</p> <p>第8回 薬物療法における安全管理と処方の理論 ―処方箋記載のルール、医薬品情報（添付文書）の読み方―</p> <p>第9回 高齢者、腎機能・肝機能障害を有する対象への薬物管理、モニタリング①</p> <p>第10回 高齢者、腎機能・肝機能障害を有する対象への薬物管理、モニタリング② ケーススタディ</p> <p>第11回 小児への薬物管理、モニタリング①</p> <p>第12回 小児への薬物管理、モニタリング② ケーススタディ</p> <p>第13回 妊娠期～授乳期の女性への薬物管理、モニタリング</p> <p>第14回 薬物療法における高度実践看護師の役割</p> <p>試験（筆記試験及びレポート作成）</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p>

学修方法	※この科目を履修するにあたっては「臨床薬理学特論 I」を履修しておくこと				
評価方法	筆記試験 40%、レポート 40%、授業への参加度 20%				
課題に対するフィードバック					
指定図書	授業内で紹介する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	丸山 敬 (2018) FLASH 薬理学, 羊土社. 渡邊直樹・監訳/H. P. Rang・J. M. Ritter・R. J. Flower・G. Henderson 著 (2018) ラング・デー ル薬理学 原著 8 版, 丸善出版.				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修					
オフィスアワー					

科目名	医療安全・特定行為実践特論
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	1 単位 (60 時間) プライマリケア NP プログラム 必修 春
科目の位置付	(2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる
科目概要	<p>(放送大学大学院単位互換科目)</p> <p>看護師が適切に特定行為を遂行するために、自らの看護実践を見直しつつ標準化する能力を身につけることを目指す。看護師の特定行為研修制度の対応科目のひとつであり、2019 年 4 月の省令改正に対応し、「医療安全学特論」と「特定行為実践」を統合し、指定の以下の内容を含むものとする。</p> <p>特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 医療倫理</li> <li>② 医療管理</li> <li>③ 医療安全</li> <li>④ ケアの質保証</li> </ol> </li> <li>2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（InterProfessional Work (IPW)）（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ       <ol style="list-style-type: none"> <li>① チーム医療の理論</li> <li>② チーム医療の事例検討</li> <li>③ コンサルテーションの方法</li> <li>④ 多職種協働の課題</li> </ol> </li> <li>3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 特定行為関連法規</li> <li>② 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習</li> </ol> </li> <li>4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 手順書の位置づけ</li> <li>② 手順書の作成演習</li> <li>③ 手順書の評価と改良</li> </ol> </li> </ol>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定行為実践の法的根拠や基盤となる技術を理解する。</li> <li>・ 特定行為実践の具体的方法を理解し、特定行為を手順書により行う看護師に必要な専門的能力を身につける。</li> <li>・ 多職種協働実践の理論と方法を理解し、医療現場におけるチーム医療の実際と課題について考察する。</li> <li>・ 多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践する能力を身につける。</li> <li>・ 問題解決に向けて多職種と効果的に協働する能力を身につける。</li> <li>・ 自らの看護実践を見直しつつ標準化する能力を身につける。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 特定行為関連法規と実践過程の構造</p> <p>第2回 医療の質と安全</p> <p>第3回 手順書の位置づけと手順書の作成演習、及び評価と改良</p> <p>第4回 アセスメント、仮説検証、意思決定の理論と演習</p> <p>第5回 医療場面での倫理と患者参画・インフォームドコンセント</p> <p>第6回 多職種協働実践：コンサルテーション・チーム医療の原理</p> <p>第7回 病院における医療安全</p> <p>第8回 在宅における医療安全</p> <p>試験</p> <p>演習 「特定行為共通科目統合演習」参照</p> <p>実習 「特定行為共通科目統合実習」参照</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> <p>実務家教員や実務家による授業：第1-8回</p>

学修方法	※放送大学によるオンライン授業である。 ※単位修得できなかった場合の再試験制度はない。 ※実習 14 時間は「特定行為共通科目統合実習」である。				
評価方法	講義、演習は、ディスカッション、レポートを含む演習(20%)、小テスト(40%)、および最終テスト(40%)の評価により行う。なお、最終テストを受験するには演習課題をすべて提出する必要がある。 実習は観察評価 (50 %)				
課題に対するフィードバック					
指定図書	放送大学大学院シラバス参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	放送大学大学院シラバス参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修					
オフィスアワー					



科目名	特定行為共通科目演習
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	1 単位 (60 時間) プライマリケア NP プログラム 必修 春
科目の位置付	(2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる
科目概要	<p>(放送大学大学院単位互換科目)</p> <p>看護師が特定行為を行う場合に必要となる「医療安全・特定行為実践特論」「臨床推論」「フィジカルアセスメント特論」の演習をとおして、実践能力の基礎となる知識・技術の向上を図る。演習には、以下の内容を含む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全に関する理論・原則、医療安全の推進に関わる制度・システム、医療施設における組織的な取り組みや実践例、患者との関わりについて、事例検討をとおして実践につなげる能力を身につける。</li> <li>2. 臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学について、以下の演習をとおして実践につなげる能力を身につける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床推論（症候学を含む）演習</li> <li>・医療面接演習</li> <li>・各種臨床検査演習</li> <li>・画像検査演習</li> <li>・臨床疫学演習</li> </ul> </li> <li>3. 看護師が適切に特定行為を遂行するために欠かすことのできない身体面に関する情報収集の方法論と所見の解釈についての理論に基づき、以下の演習をとおして技能の習得を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体診察基本手技演習</li> <li>・部位別身体診察手技と所見演習</li> </ul> </li> </ol>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全の原理・原則を理解し、実践につなげることができる。</li> <li>2. 医療安全に関わる法、倫理、制度、システムを理解する。</li> <li>3. 医療事故事例を分析し、対策を検討することができる。</li> <li>4. 臨床推論の基本的な考え方について説明できる。</li> <li>5. 症例に関する情報の収集・分析ができる。</li> <li>6. 得られた情報を基にその症例の問題点を抽出できる。</li> <li>7. 生活者として「生きていく」ための身体機能のアセスメントを進め、生活者を支える看護活動への指針を与えることができる。</li> <li>8. 生命体として「生きている」ことをモニタリングし</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 臨床推論・医療面接演習(臨床推論・演習)</p> <p>第2回 身体診察基本手技演習(フィジカルアセスメント・演習)</p> <p>第3回 部位別身体診察手技と所見演習(フィジカルアセスメント・演習)</p> <p>第4回 各種臨床検査演習(臨床推論・演習)</p> <p>第5回 画像検査演習(臨床推論・演習)</p> <p>第6回 臨床疫学演習(臨床推論・演習)</p> <p>第7回 医療安全・ケアの質保証の事例検討(医療安全学・演習)</p> <p>第8回 医療倫理・医療管理の事例検討(医療安全学・演習)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> <p>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-18回</p> <p>実務家教員や実務家による授業：第1-8回</p>

学修方法	<p>※受講にあたっては、指定図書と指定サイト（授業内で提示）での自己学習を必須とする。</p> <p>※指定教材として聴診器を使用する。Web 教材ではイヤホンを用いて呼吸音聴取の演習を行うが、その後、生体に対して実際の聴診を演習する際には聴診器が必要となる。呼吸音聴取のためには、ある程度の品質を備えた聴診器が不可欠である。定価で15,000～20,000円程度のものが相応しいと考える（販売価格は時期により変動する）。</p> <p>※放送大学によるオンライン授業である。</p> <p>※この科目を履修するにあたっては、「統合医療安全・特定行為</p>				
評価方法	ディスカッション、レポート、シミュレーターによる演習の評価				
課題に対するフィードバック					
指定図書	『フィジカルアセスメントガイドブック－目と手と耳でここまでわかる』（山内豊明／医学書院；第2版(2011/12/9)を使用する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	放送大学大学院シラバス参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修					
オフィスアワー					